



いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。

2026年3月期 第3四半期 決算速報

2026年2月9日

SWCC株式会社

2025年度 第3四半期連結業績 P/L

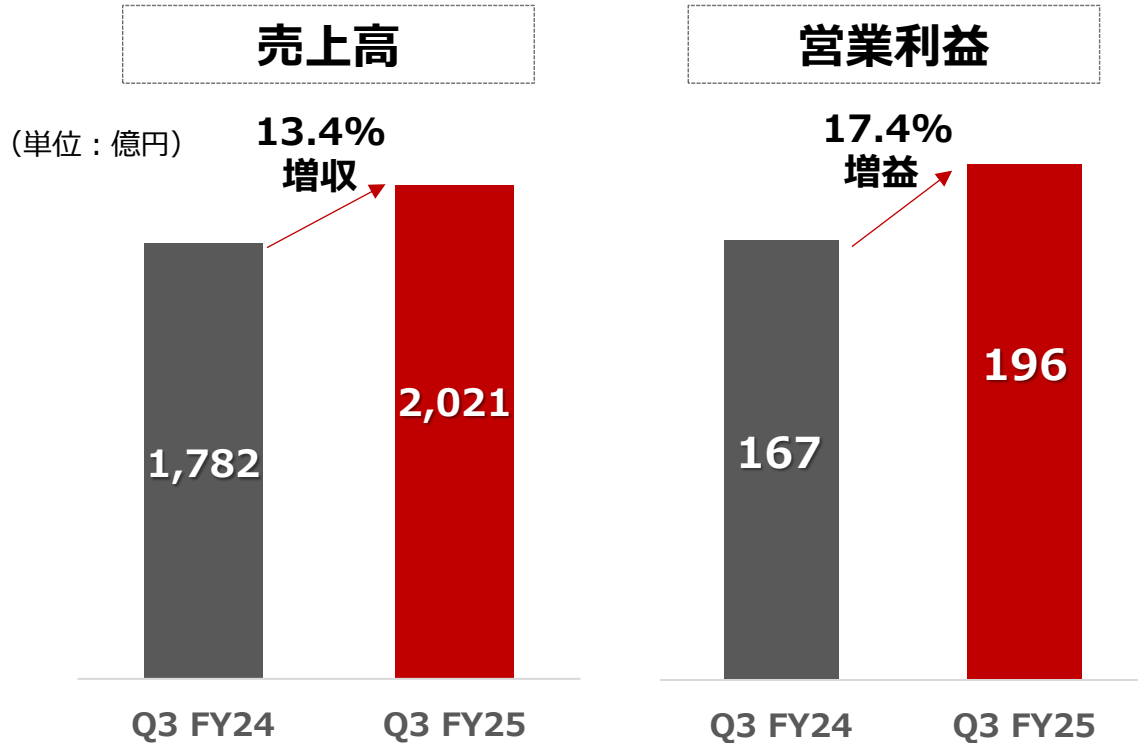
建設関連は例年通りQ3回復。電力インフラ、通信ケーブル事業も好調に推移。
Q3実績は、売上高、利益共に過去最高を更新し、順調に進捗。

(単位：億円)	Q3 FY24 実績	Q3 FY25 実績	YoY %	FY25 通期計画	進捗率 %
売上高	1,782	2,021	13.4%	2,700	74.8%
営業利益	167	196	17.4%	260	75.2%
営業利益率 %	9.3%	9.7%	—	9.6%	—
経常利益	71	188	165.6%	250	75.3%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	77	128	64.6%	160	79.7%

2025年度 第3四半期決算のポイント

Q3前年同四半期比

電力インフラ、通信ケーブル事業の業績好調により、**増収・増益にて、共に過去最高を更新。**



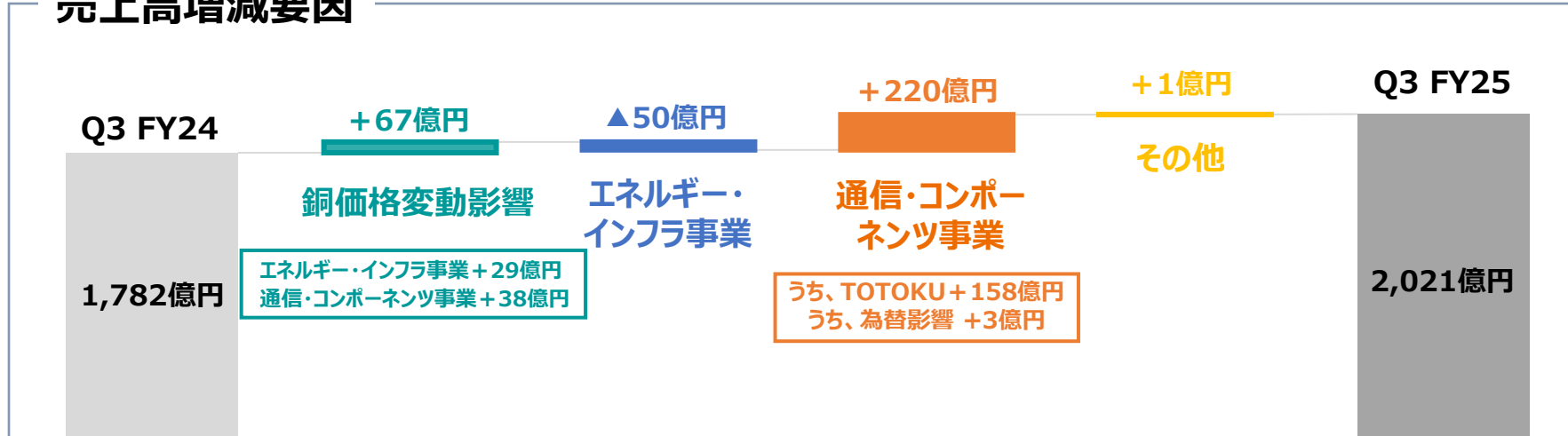
Q3進捗率

売上高・営業利益ともに**順調な**進捗。

(単位：億円)	通期計画	FY20-24 平均進捗率	Q3進捗率
売上高	2,700	74.0%	74.8%
営業利益	260	73.8%	75.2%

2025年度 第3四半期 増減要因（前年同四半期比）

売上高増減要因



【増減要因】

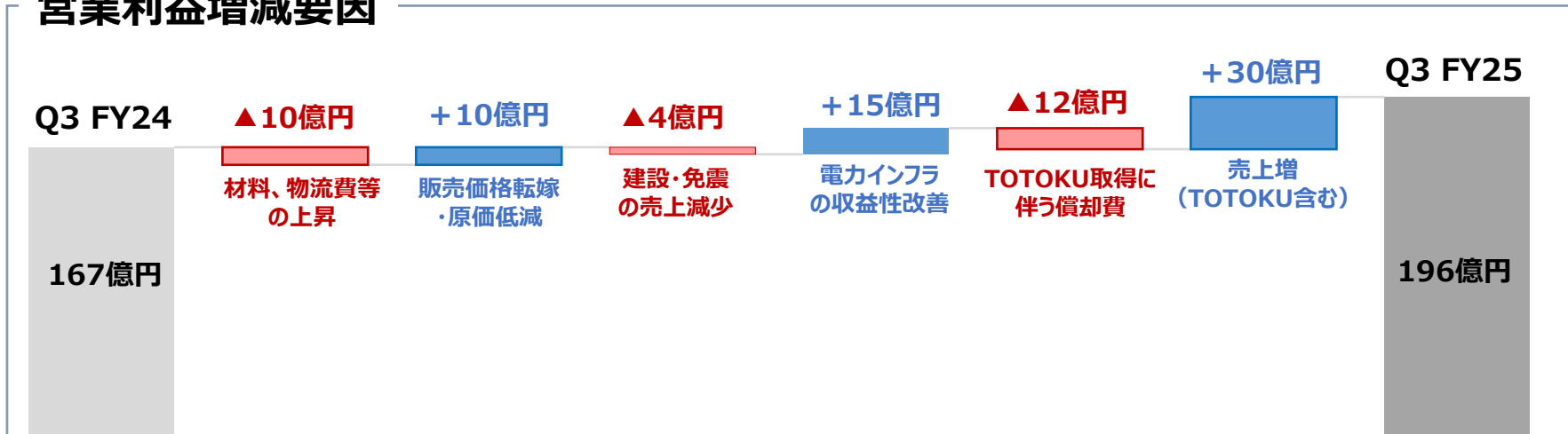
1. 売上高

銅価格の高騰および第2の成長の柱である通信・コンポーネツ事業の売上増により**前年同四半期比増収**。

2. 営業利益

コスト上昇は、販売価格転嫁と原価低減でカバー。建設関連の減少は期初想定よりも縮小。TOTOKU取得に伴う償却費も期初想定内。電力インフラの収益性改善およびTOTOKU含む全体の売上増により**前年同四半期比増益**。

営業利益増減要因

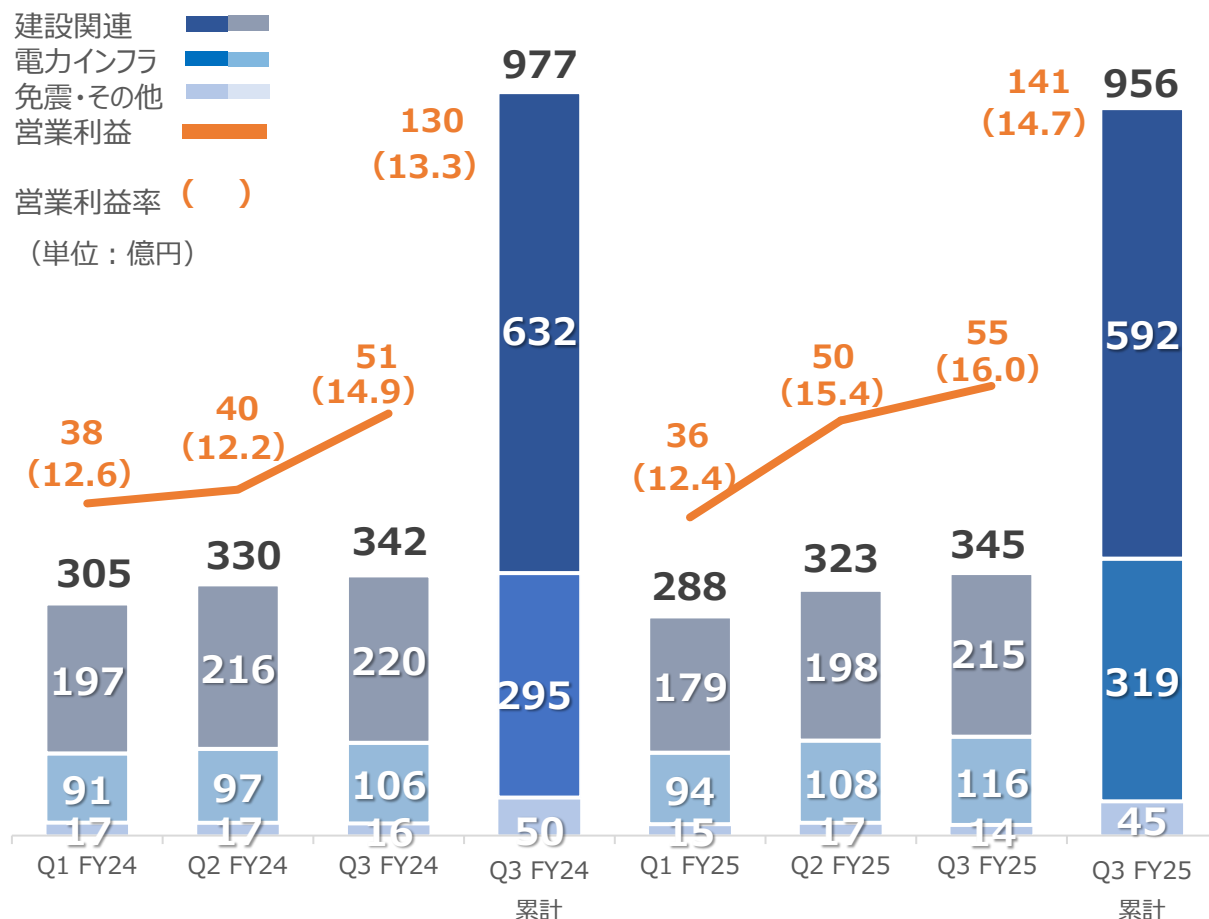


2025年度 第3四半期セグメント別業績 P/L

		Q3 FY24 実績	Q3 FY25 実績	YoY %	FY25 通期計画	進捗率 %
(単位：億円)						
エネルギー・インフラ事業	売上高	977	956	▲2.1%	1,300	73.6%
	内、建設関連	632	592	▲6.3%	790	74.9%
	内、電力インフラ	295	319	8.2%	444	71.8%
	内、免震・その他	50	45	▲9.8%	66	68.5%
	営業利益	130	141	8.5%	182	77.4%
	営業利益率 %	13.3%	14.7%	—	14.0%	—
通信・コンポーネッツ事業	売上高	759	1,017	34.0%	1,325	76.7%
	内、通信ケーブル	213	251	17.7%	330	76.0%
	内、モビリティ・半導体用	260	376	44.4%	490	76.7%
	内、産業用	285	390	36.7%	505	77.3%
	営業利益	39	55	39.9%	78	70.4%
	営業利益率 %	5.2%	5.4%	—	5.9%	—
	EBITDAマージン %	7.4%	9.2%	—	9.8%	—

2025年度 第3四半期 セグメント業績 エネルギー・インフラ事業

国内建設関連向けは、Q3回復。電力インフラについては、アルミ架空電線撤退による売上減少はあるも、工事増と事業全体の付加価値向上により利益率が向上。**前年同四半期比減収（2.1%減）・増益（8.5%増）。**



Q3業績 好不調の要因

建設

- ・労働時間規制の工期長期化による需要減と資材価格高騰の影響は続くも、例年通りQ3は回復
- ・生産効率改善効果により利益改善

Q4見込 例年通りQ4は需要減少見込み

電力

- ・工事件数増加、SICONEX®の増産投資効果、および付加価値向上により利益率向上

Q4見込 引き続き需要堅調が継続

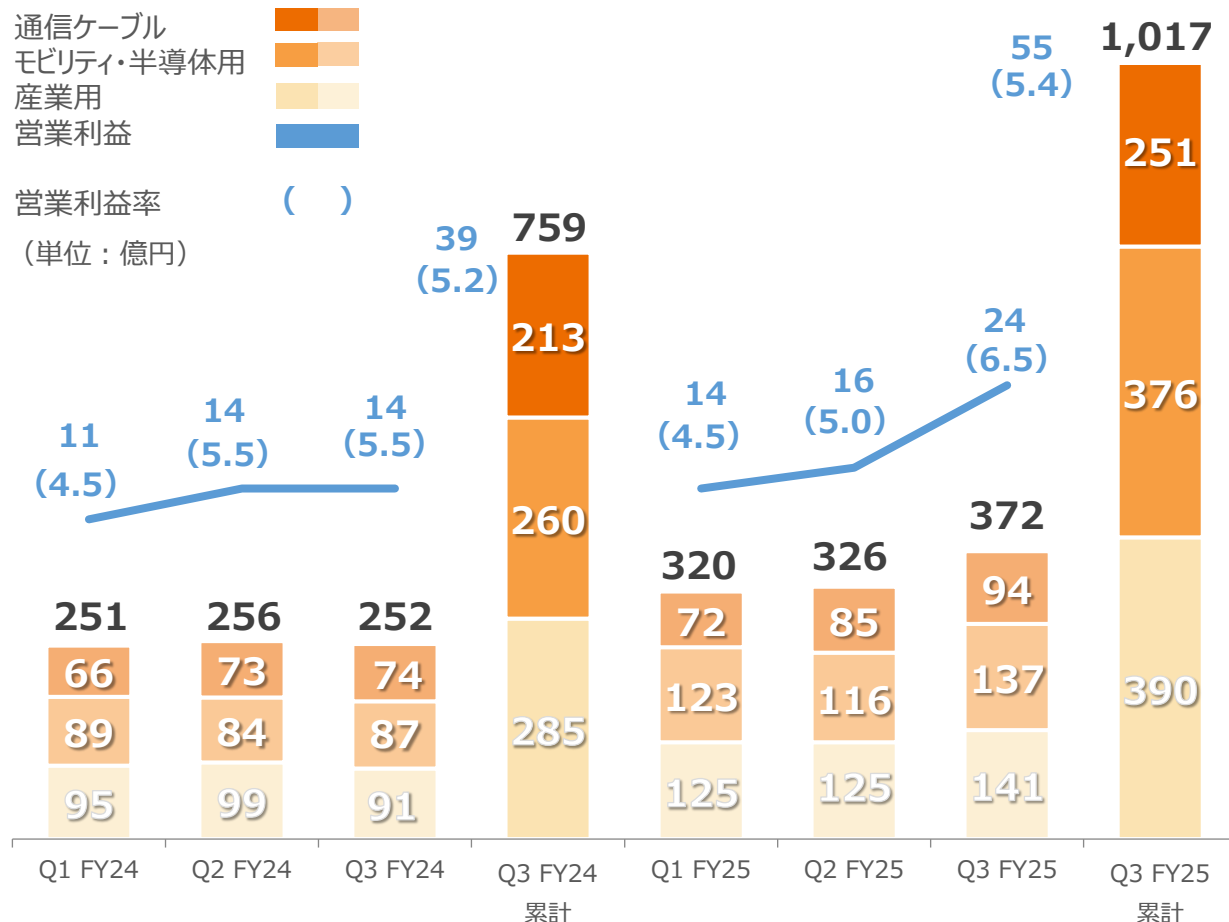
免震他

- ・免震事業撤退に伴う、減収・減益

Q4見込 減収・減益の継続

2025年度 第3四半期 セグメント業績 通信・コンポーネンツ事業

通信ケーブルは、米国AIデータセンター向けe-Ribbon®の需要が下期に向け急拡大。TOTOKU業績統合による売上増の一方で、産業用は苦戦。**前年同四半期比増収（34.0%増）・増益（39.9%増）**。



Q3業績 好不調の要因

通信

- ・ハイパースケーラー需要活発でe-Ribbon®は顧客より増量要請あり好調
- ・ADAS標準搭載車は拡大し、車載向けは特に北米で好調

Q4見込 e-Ribbon®需要増継続

モビリティ・半導体

- ・中国半導体検査装置市場は好調継続。コンタクトプローブは下期に入り大幅増産
- ・シートヒータ市場は拡大傾向も顧客の在庫調整あり

Q4見込 半導体検査装置市場は活況継続

産業用

- ・ワイヤハーネスは中国市場は家電向け補助金政策効果剥落により需要減速
- ・汎用巻線は市場鈍化

Q4見込 汎用巻線は収益改善に向けた構造改革に着手



SWCC株式会社

<https://www.swcc.co.jp>

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。
このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
実際の業績に影響を与えうる要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。
なお、業績等に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。